

# 丹那トンネル震災後の 中心線及水準検測の結果

前號に於て地震のため移動したる丹那トンネル中心線略圖を掲載したるが、其後熱海建設事務所に於て同測量調査を完了し、二月下旬次の如く發表された。世界的に注目されてゐたトンネル移動の狀況も、爰に初めて正確になつたわけである。前號の川口熱海建設事務所長の記事及び寫眞と對照され度い。(編者)

## (1) 中心線

東口坑内掘鑿終了部分の中心線検測の結果は直線にして異狀がない。

西口は、東口坑内掘鑿終了部分の中心線に移動なきものとして之を延長して検測するに南方に移動し、坑門起點9,966呎附近より坑奥は少し北方に折れてゐる。而して其移動の程度は坑門に於て6.35呎。坑門起點9,966呎(約7吋上下に段違を生じた附近)に於て7.44呎。11,022呎に於て7.28呎。11,418呎(斷層面附近)に於て7.07呎である。

尙ほ目下廣い範圍に涉り陸軍省參謀本部に於て

測量中であるが、其結果が判れば、東口は移動したか否やが判明する筈である。然し東口坑内掘鑿終了部分の中心線と、地表面の東口及瀧地山をなつなく舊中心線とは一致してゐる。

## (2) 水準

東口坑門は移動なきものとすれば、坑門起點9,081呎迄は移動なく、10,401呎(東坑底設導坑掘鑿末端10,560呎)に於て0.33呎低下してゐる。

西口は東口坑門を移動なきものとして検測するに、坑門より坑門起點8,250呎迄は0.41呎。10,560呎(覆工完了末端10,672呎)に於て1.60呎。11,406呎に於て1.79呎。11,920呎(本坑底設導坑掘鑿末端11,795呎。南側第三水抜坑掘鑿末端11,985呎)に於て2.46呎である。

## (3) 今後掘鑿の方針

中心はS形曲線を挿入し、勾配は地盤低下にならひ一部變更する。而して覆工完了部分は現状の儘にて支障はない。

